

今後のまちづくりの提案や広聴のあり方の検討について

令和元年12月11日 資料

地域振興戦略部

1 主旨

[主旨]

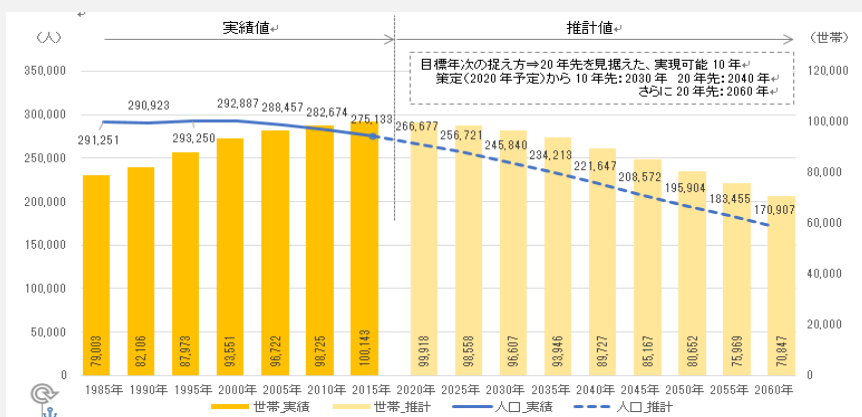
地域の代表機関として活躍してきた地域委員会のこれまでの活動を振り返るとともに、地域の現状と課題を総合的な視点から照らし合わせながら、今後の地域づくりに相応しいまちづくりの提案や広聴機能の形について、幅広く議論していただきたい。

[背景]

- 合併後、支所地域におけるまちづくりの検討や広聴の代表機関として、地域委員会を設置
- 15年にわたり、地域における振興策や生活課題への対応などを議論。ふるさと創生基金事業や地域の宝磨き上げをはじめ、少子化を背景とする小学校や保育園の統合、交通対策、コミセンの開設、新たな活動の誘発など、様々な成果を創出してきた。
- 一方、いずれの地域においても人口減少、高齢化は着実に進んでおり、地域の担い手不足はいずれの地域においても懸念されている。
- そのようななか、地域には区長会や総代会、コミセン協議会など住民代表が集う様々な組織が存在し、広聴機能の効率化を求める意見も散見されるようになってきた。
- また、若い世代の多様な活動が芽生えている地域もあるなかで、次代を担う若者の意見を積極的にまちづくりに活かすことが、地域の活力維持につながるという意見も聞かれる。

2 与板地域の現状と課題

(1) 全市人口及び世帯数の推移と将来見通し



※与板地域の震災前後の比較

	人口(人)	高齢化率(%)
H16.4.1 (震災前)	7,158	23.4
H31.4.1 (震災後)	6,311	34.3
増減	▲ 847	10.9

(2) 地域の主な課題

- ・浸水をはじめとする防災、減災対策
- ・公共施設の老朽化
- ・地元タクシー会社が廃業したことによる交通弱者への対応

(3) 広聴組織、団体の状況等

- ・コミセンの夢会議やまちづくり部会でまちづくりに関する活動を行っている。
- ・地域の宝磨き上げ事業補助金を活用し、各団体が地域活性化のために活動を行っている。
- ・37町内会があるが、住民の合意形成を図る組織がない。
- ・商工会、コミュニティ協議会、観光協会の連名で行政機能を併せ持つ複合施設の要望書を提出している。

3 与板地域委員会が果たしてきたまちづくりへの提案・広聴機能

[まちづくりの提案]

- 地域の安全・安心、子育て支援、地域資源の活用など幅広い分野について議論を重ね、住み良いまちにするための振興策について提案した。
- ・NHK大河ドラマ「天地人」が平成21年に放映されることが決定した。県内外から多くの来訪者が見込まれ、施設整備の必要性があることから、地域委員会として市に要望書を提出し、案内看板・駐車場整備・トイレの設置が実現した。
- ・地元町内会への愛着と環境美化意識の啓発を目的として、地域づくりに関する提言書を提出した。これにより、地域活性化事業として、町内会代表者によるワークショップを開催し、観光面での利用を併せ持った町内看板の設置と地域一斉美化活動の実施が実現した。
- ・地域をイメージする食として「お船らーめん」が平成27年2月28日に誕生し、イベントでの提供やマスコミへの周知により、与板地域のPRと地域の活性化につながった。

[広聴機能]

- ・子育て支援をテーマとして議論し、子育て世代が何を望んでいるのか調査するため、地域委員会で子育て世代に対して「子育てアンケート調査」を実施し、その結果を関係機関等で活用していただくために配布した。
- ・与板十五夜まつりの目玉である登り屋台。その屋台を所有している3町内が抱えている課題(維持管理・資金面)について地域全体で解決策や打開策を考えてもらい、十五夜まつりの更なる発展につなげるため、村上天祭の関係者を招待し、十五夜まつりシンポジウムを開催した。

4 今後の検討テーマ(案)

次のテーマについて幅広く御意見をいただきたい。

- まちづくりに関する地域住民の意見・提案をお聞きする「広聴の仕組み」として
相応しい形は
- 多様な地域課題に対し、実のある検討を柔軟に行う「検討の仕組み」として
相応しい形は